

参考資料  
〔未来投資会議関係〕

第19回 未来投資会議(平成30年10月5日)  
「成長戦略の方向性(案)」(内閣官房日本経済再生総合事務局作成)(抜粋)

## 2. フィンテック／キャッシュレス化

◆ 以下の項目等について検討

- 個人・事業者がより便利な条件で商取引サービスが可能となるよう、現在の業態ごとの関連法制を同一の機能・リスクには同一のルールを適用する機能別・横断的な法制へと見直し、新規事業者の参入を促進
- 支払／決済を意識せずにモノ・サービス受領が行われるキャッシュレス社会(あるいは、ペイメントレス社会)の実現に向けて以下を実施

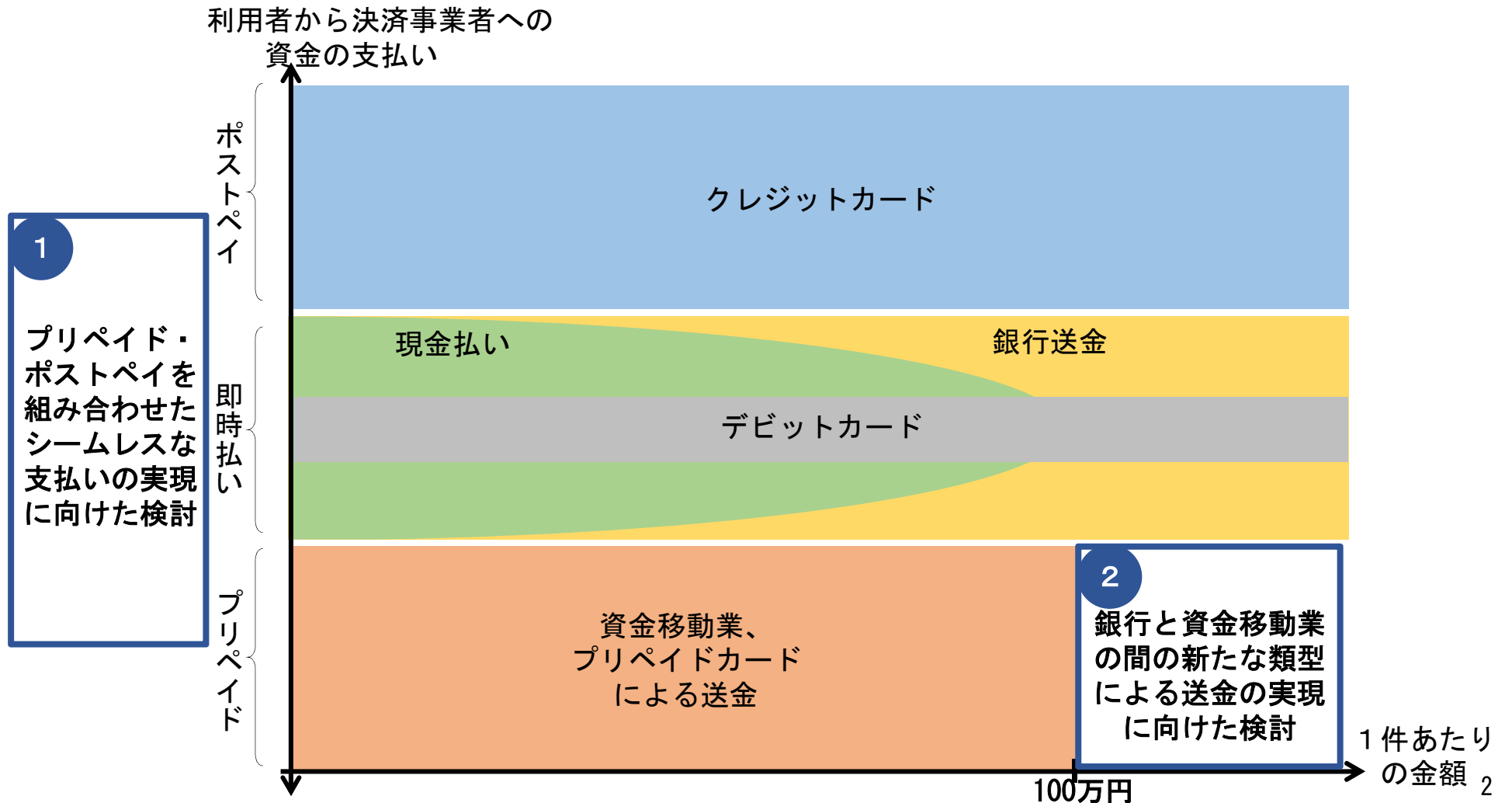
(略)

－ 銀行を経由しない送金の容易化

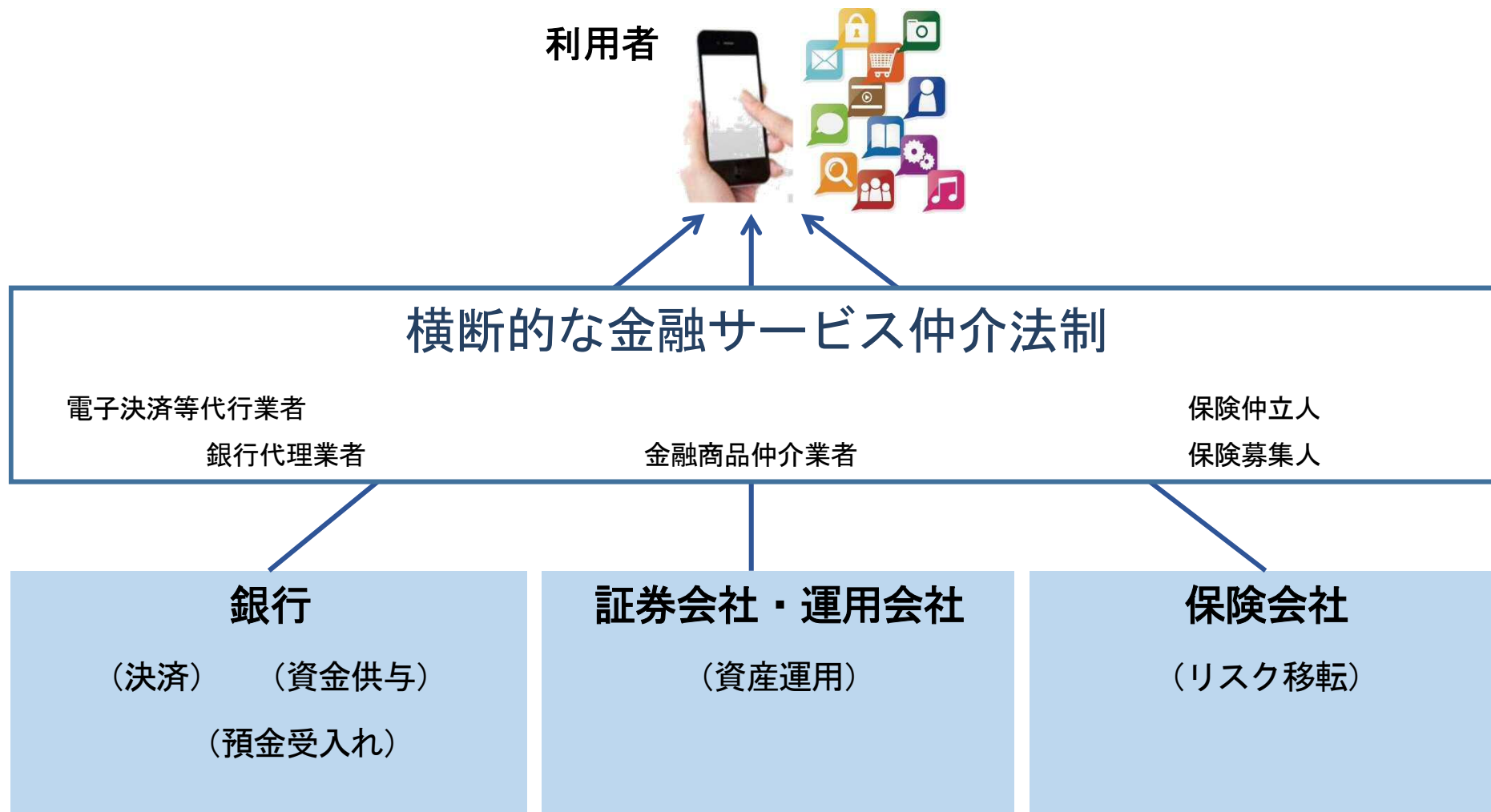
- 個人間で、スマホ一つで簡単に送金できるよう、銀行を介さないでもスムーズに送金できるよう制度的障害を取り除く(具体的には「資金移動業」の規制(送金上限100万円)を含む金融法制を見直すことで、個人や中小企業が銀行ATMの利用よりも安価でかつWEB上等で送金が可能になる)。

(略)

- 「決済」分野について横断化・柔構造化を図る。
  - ①プリペイド（前払い）・ポストペイ（後払い）を組み合わせたシームレスな支払いの実現
  - ②銀行と現行の資金移動業の間の新たな類型による幅広い金額の送金の実現
- これにより、新規事業者の参入と様々なサービス間の競争を通じた、柔軟で利便性の高いキャッシュレスペイメント手段を実現。



- 金融サービスの仲介について、機能・リスクに応じた必要な利用者保護は確保しつつ、**様々な金融サービスを横断的に提供することを可能とする「横断的な金融サービス仲介法制」**の実現に向け検討。
- これにより、個々の利用者が、スマートフォンなどを活用し、**様々な金融サービスの中から自らのニーズにあったものを選択しやすくし、金融サービスの「質」をめぐり競争を促進。**



## 第23回 未来投資会議(平成31年2月13日)発言(抜粋)

### 麻生金融担当大臣

金融担当大臣に就任以来、「金融育成庁」として、利用者保護等と同時にイノベーションを促進する環境作りに取り組んでおり、その一環として機能別・横断的な法制の検討に取り組んでいる。

まずは、新しいサービスが続々と提供されている一方で、法制は縦割り構造が特に甚だしい「決済」分野について、横断化・柔構造化を進めていきたい。

例えば、スマートフォンで少額を中心にプリペイド(前払い)とポストペイ(後払い)を組み合わせたシームレスで便利な支払いができるよう、法制の検討をしていきたい。

また、高額・企業間の決済は、決済の確実な履行の確保が重要であるため、現行の資金移動業と銀行の間に新たな類型を設ける検討をしていきたい。

もう1つ、金融商品・サービスも、インターネットなどを活用して、商品の特徴や価格について比較検討を行い、自分にあったものを選ぶ時代になりつつある。

金融特有の機能・リスクに応じた必要な利用者保護は確保しつつ、銀行・証券・保険といった金融サービスについて、利便性の高いワンストップのチャネルの提供を可能とするよう、「横断的な金融サービス仲介法制」の実現に向けた検討をしていきたい。

### 安倍内閣総理大臣

現在の銀行、サービス提供者といった業態別の法体系が、新規参入者などによる柔軟なサービス提供の障害となっている。決済をはじめとする分野で、早期に規制体系を再編成する法案の提出を検討したいと考える。